

泌尿器科研修プログラム

一般目標（GIO=General Instructive Objectives）

プライマリーケア・スクリーニングを含む泌尿器科外来診療を適切に実施する能力を養い、泌尿器科領域の基本的臨床能力を持ち、指導医のもとで入院患者に対して全身・局所管理が適切に行える能力を身につけることで、泌尿器科領域のプライマリーケア能力の習得を目標とする。

行動目標（SBOs=Specific Behavioral Objectives）

1. 泌尿器の理学的検査（腎・腹部触診、前立腺触診、陰嚢内容触診、神経学的検査など）を実施し、所見を判定することができる。
2. 検尿（生化学的、顕微鏡的および細菌学的）、血液生化学、内分泌検査（下垂体、副腎、精巣、副甲状腺検査）、尿道分泌物、前立腺液、精液の検査を実施あるいは指示し、所見を判定することができる。
3. 内視鏡検査（尿道膀胱鏡検査、尿管カテーテル法など）を実施し、結果の解釈ができる。
4. X線検査（KUB、IVP、DIP、RP、AP、各種膀胱造影、尿道膀胱造影、血管造影、CTなど）、MRI、腎機能検査（クレアチニン・クリアランス、分腎機能検査など）、断超音波画像診断法（腎、前立腺、膀胱、陰嚢内容など）、核医学画像診断法（レノグラム、腎シンチ、骨シンチ、副腎シンチ、副甲状腺シンチなど）を実施あるいは指示し、所見を判定することができる。
5. ウロダイナミクス（尿流測定、膀胱内圧測定、尿道内圧測定など）を実施し、結果の解釈ができる。
6. 尿閉、血尿、タンポナーデ、ショックなどの救急処置ができる。
7. 自己導尿の指導、バルーンカテーテル留置者には膀胱洗浄法の指導、尿路変更後のストーマ、カテーテルの管理、透析患者に対する水分摂取、食事指導などの処置や指導を適切に行うことができる。
8. 泌尿器科領域の基本的な手術について、手術法の原理と術式を理解し、指導医の下で手術を自ら実施あるいは手術の助手をつとめることができる。
9. 手術患者に対して術前・術後の全身管理と対応が適切に行える。
10. 泌尿器科領域の基本的な非手術的治療（体外衝撃波碎石術（ESWL）、悪性腫瘍に対する全身的化学療法、血液浄化法（血液透析・腹膜透析を含む）、全身的感染症の薬物治療など）ができる。
11. 悪性腫瘍の放射線治療および化学療法による合併症の管理が適切に行える。
12. 偶発症（発熱、出血、循環不全、呼吸障害、意識障害、ショックなど）に対して迅速かつ適確な処置がとれ、さらに蘇生術を行うことができる。

研修方略(LS=Learning Strategies)

1. 外来業務
指導医、上級医の指導の下に、検査、診療に携わることで、泌尿器科疾患の基礎的手技、診察法を習得する。
外来患者の問診および身体所見を把握し、検査計画とともに外来診療方針を立てる。
2. 病棟業務
指導医、上級医の指導の下に7-10名程度の患者の担当医となり、検査、診療に携わることで、泌尿器科疾患の基礎的手技、治療法を習得する。
入院患者の問診および身体所見を把握し、検査計画とともに入院診療方針を立てる。
3. 手術
泌尿器科領域の基本的治療に関する意義、原理を理解し、術者または助手をつとめて、基本的な手術手技を習得する。
4. カンファレンス、抄読会
画像カンファレンス、手術症例カンファレンスにおいて、読影の基礎を身につけ、手術適応や術式の決定に関わる。抄読会において、プレゼンテーションを行う。

評価 (EV=Evaluation)

1. 自己評価
EPCおよび症例レポート、自己評価表を用いて自己評価を行う
2. 指導医による評価
EPOCおよび症例レポートを用いて評価を行う
3. コメディカルによる評価
EPOCおよび評価表を用いて評価する
4. 研修医による評価
EPOCおよび評価表を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）、プログラム内容を評価する